

西区社会福祉協議会

1. はじめに

(1) 大震災直後の状況（1月17日～2月上旬）

西区の被害は、既成市街地域の6区（東灘区～須磨区）に比べると軽微であったが、断水など震災の影響は西区全域に及んだ（表1）。大震災当日、西区役所内に西区災害対策本部が設置され、被害状況の情報収集に努めるとともに、避難者のケアにあたった。西区社会福祉協議会（以下「西区社協」という。）もその応援を行った。西区内のほぼ全域が断水したため、本部内に給水班を編成し、水道局とともに給水活動を行った。また、屋根の応急修理対策として約5,000枚のビニールシートの配付を行った。

その後、西区内の状況が落ち着いてくると西区内の市民や企業がボランティアとして既成市街地域へ炊き出し等支援活動を行い、後方支援部隊的な役割を果たした。西区社協はそうした状況の中で、ボランティア活動のコーディネートをを行い、活動を支援した。

表1 西区の被害状況等

被害状況	死者	7名	避難所	14カ所
	家屋等の損壊		(最大時)	約1,800人
	・全壊	765戸		
	・半壊	4,703戸		
	・一部損壊	28,366戸	応急仮設住宅	67カ所
	火災	1件	の建設	8,941戸
	地滑り	1カ所		
	断水	ほぼ全区域内		
	ため池損傷	89カ所		
	新幹線高架落下	1カ所		

出典）阪神・淡路大震災－神戸市の記録1995年－（平成8年1月発行）

(2) 応急仮設住宅入居者への対応（2月下旬～）

西区での応急仮設住宅（以下「仮設住宅」という。）の建設場所は、西神ニュータウン、学園都市など、新興住宅地域が中心で、最終的な建設戸数は8,941戸、神戸市全域の建設戸数29,178戸の3割にあたる。入居者は約1万6千人、65歳以上の高齢者は3割の5千人と、高齢化率が非常に高い。また、全世帯の2割の1,700世帯が一人暮らしの高齢者世帯となっている。

西区災害対策本部では、まだ入居が始まっていない2月に「西区仮設住宅問題検討会」を発足させ、近く仮設住宅で問題になるであろう項目を検討した。また、仮設住宅への入居が本格化してからは、区役所、福祉事務所、保健所、住宅供給公社が出席し、西区連合婦人会、J A神戸市西、コープこうべの協力を得て、「仮設住宅入居者臨時行政相談窓口」をかすがプラザ集会所など、西区の4つの会場で行い、仮設住宅の施設面・環境面の苦情や生活再建に関する各種相談を受け付けた（表2）。西区社協としても、「西区仮設住宅問題検討会」、「仮設住宅入居者臨時行政相談窓口」に参加するとともに、仮設住宅に入居されている高齢者の見守り活動や、ボランティア活動のコーディネートなど、仮設住宅入居者への支援を行ってきた。その中から、ひとり暮らし老人の見守り活動、ボランティア活動支援について紹介していく。

表2 仮設住宅入居者臨時行政相談窓口

月 日	場 所	来場者
4月23日（日）	かすがプラザ集会所	500名
5月7日（日）	かりばプラザ集会所	350名
5月28日（日）	横河ヒューレット・パッカード（株）体育館	600名
6月18日（日）	西神戸ニュータウンジョイフル会議室	250名

2. ひとりぐらし老人の見守り活動

西区社協として、緊急的に取り組んだのは、仮設住宅に住むひとりぐらしの高齢者の見守り活動だった。仮設住宅に入居された高齢者が、慣れない環境で少しでも安心して暮らせるように地域で見守りをする必要があった。特に、夏場、仮設住宅に閉じこもりがちな高齢者の安否が懸念された。西区社協では、「ひとりぐらし老人友愛訪問活動」（以下「友愛訪問」という）をはじめとする高齢者の見守り活動を、西区の全仮設住宅に広げていった。

友愛訪問は、民生委員の指導の下に、5人以上の訪問ボランティアが3人以上のひとりぐらし老人を、週に1回以上、安否確認や相談相手を行うものである。

震災前の西区の友愛訪問登録グループは21で、仮設住宅全体をカバーするためには、新たなグループを結成する必要があった。新規に結成された友愛訪問グループは次の3つの団体をベースにしている。

第1は「西区連合婦人会」である。「西区連合婦人会」は16地区、約5千名の会員を有する団体である。平成7年6月26日に仮設住宅に対する友愛訪問グループ結成に向けて、連合婦人会会長と民生委員総務が合同会議をもち、その結果、51グループが結成され、仮設住宅の見守り活動の範囲が広がられた。



（ひとりぐらし老人友愛訪問活動）

第2は、「ふれあいのまちづくり協議会」である。「ふれあいのまちづくり協議会」とは、地域の団体（自治会、婦人会、老人会、子供会など）や民生委員などで結成され、地域福祉センターを拠点として活動する地域福祉団体である。樫野台、糀台、北山台、岩岡で友愛訪問グループが結成され、その地域の仮設住宅の見守り活動を行った。また、学園、学園東などのふれあいのまちづくり協議会では、独自に食事会やイベントを実施するなど幅広いボランティア活動がなされた。

第3は、ボランティアセンターに登録するボランティアグループである。それらは友愛訪問をしながら、茶話会や家事授助などのボランティア活動を行った。

その他に、民生委員児童委員協議会がイニシアティブをとって結成されたグループ、仮設住宅の中に住む人が結成したボランティアグループ等を含めて、仮設住宅の友愛訪問グループは、142グループが結成された。ボランティアは1,007人で震災前と比べると、グループ数は7倍、ボランティアは8倍の増加となった（表3、表4）。

友愛訪問が西区の仮設住宅全体に広がるまでの間、西区社協では、友愛訪問の代わりとして「安心テレホンサポート事業」を実施した（図1）。「安心テレホンサポート事業」とは、電話をかけるボランティア（以下「テレホンサポーター」という。）が週に2回程度、ひとりぐらし老人に電話をかけ、健康状態等を尋ね、異常が感じられた時、保健所、福祉事務所等と連携して高齢者の対応にあたるものである。ボランティアは1日3名がボランティアセンターから電話をかけた。当初は西区連合婦人会のボラン

ティアが参加し、後にはボランティアセンターに登録したボランティアが活動に参加した。電話をかける対象老人は、300人が登録され、電話をかけた回数は7年度中で1万2千回となった（表5）。

この事業の目的は、第一にひとりぐらし老人の安否確認であったが、テレホンサポーターからの励ましが心のケアになるとともに、テレホンサポーターから提供される買物、医療機関などの話題が、仮設住宅に入居された市民の生活情報として役立てられた。友愛訪問が始まってテレホンサポートを望む声が多いため、8年度もテレホンサポート事業を継続している。

表3 友愛訪問グループ結成状況

平成8年3月末現在

	グループ総数	ボランティア	対象老人
震災前	21	125	133
震災後	163	1, 007	1, 788
うち仮設住宅向け	142	882	1, 655

表5 テレホンサポート事業活動状況

平成7年6月28日～平成8年3月29日

活動日数	186日
対象老人	300人
登録ボランティア	50人
延べボランティア数	541人
電話回数	12, 659回

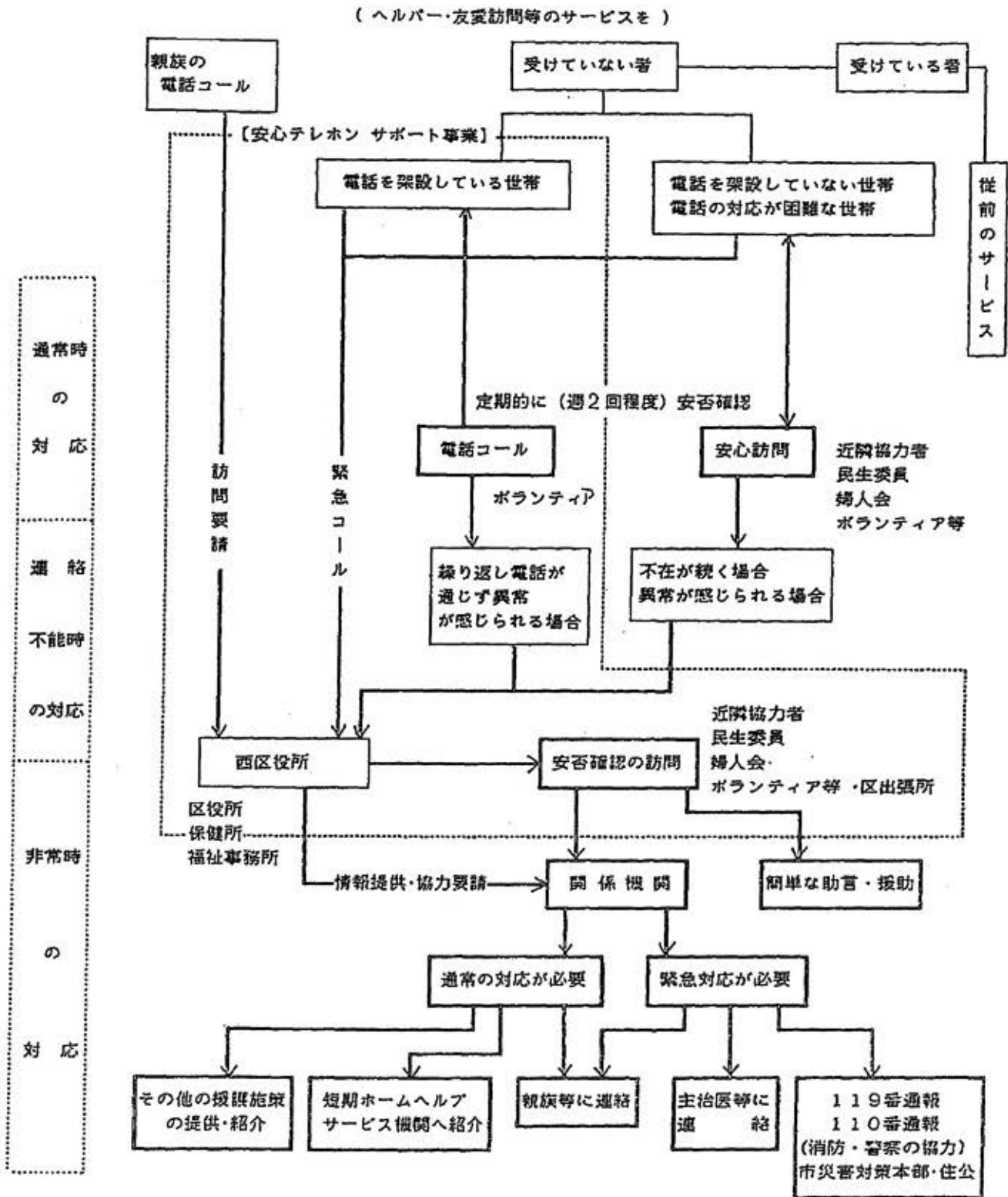
表4 仮設住宅友愛訪問一覧表

平成8年3月末日現在

町名	民協	NO.	名称	所在地	戸数	募集	健渡し日	支援組織		
伊川谷	学園都市	1	学園東町(1)	学園東町8 公有地	70	二次	4/17	虹の会		
		2	学園東町(3)	学園東町3-1884-19	258	三次	5/11	学園東町第3住宅自治会VG		
		3	学園東町(4)	学園東町5-4	47	三次	5/8	東町第4住宅G		
		4	学園東町(2)	学園東町5-12	84	二次	4/11	あすなろ会		
		5	学園西町	学園西町5-9	14	二次	4/19	花		
	伊川谷	6	寛谷(3)	寛谷1-3-5	500	三次	5/15	伊川谷婦人会+地元民協		
		7	寛谷(2)	寛谷2-1-5又は2-11-1	750	三次	5/12・13	地元民協		
	西神	8	西神南(1)	井吹 公有地	182	二次	3/30	J.Aふぁみり〜		
		9	西神南(2)	井吹 公有地	114	二次	4/16	玉津婦人会		
	長坂有瀬	11	伊川谷(2)	有瀬977-2	12	二次	4/6)有瀬婦人会		
		12	包丁池	有瀬1137-10	98	二次	4/14			
	伊川谷	13	伊川谷(1)	別府1337-1	38	二次	4/6	さくらんぼ		
		42	寛谷(1)	寛谷1-4-2 久留主谷公園	66	三次	5/8	伊川谷婦人会+地元民協・(茗荷村)		
	長坂有瀬	48	池上中央	池上2-21-1	57	四次	5/29	さくらんぼ		
	学園都市	49	学園西町(2)	学園西町6-3-1	55	四次	5/29	花		
	長坂有瀬	52	有瀬(1)	有瀬453-1	24	五次	7/24)有瀬婦人会		
53		有瀬(2)	有瀬696-2	14	五次	7/24				
54		湊山	有瀬601	40	五次	7/24				
学園都市	55	学園東町(5)	学園東町9-1	118	五次	8/10	学園シニア第1G			
	56	学園東町(6)	学園東町8-3	146	五次	8/10	コスモス			
小計				20 か所	2,687					
碓谷	西神	10	西神南(3)	井吹台東町4-21	64	三次	5/8	やまびこ		
		18	狩場台(2)	狩場台1 公有地	60	三次	5/8	グループ花水木		
		19	狩場台	狩場台5-1	74	二次	4/11	めばえ、さくら会		
		20	西神(8)	狩場台3-6	20	二次	4/6	なかよし会		
		21	西神(12)	狩場台3-9-17	92	三次	5/8	日乃出グループ、コープVカリバ		
		22	西神(5)	播谷 公有地	181	二次	3/30	カサブランカ、みどりの会、なでしこの会		
		23	西神(4)	池谷 公有地	137	二次	3/31	碓谷ふれあいのまちづくり協議会VG		
		24	碓谷(1)(2)	碓谷3-33	207	二次	4/23	碓谷婦人会+地元民協、碓谷剣友会、地元G		
		25	西神中央	長谷425又は730	250	三次	5/10	碓谷婦人会、07、清白、fah、碓谷第3班		
		26	西神(3)	長谷 公有地	97	二次	3/30	碓谷婦人会		
		27	竹の台	竹の台3-18	74	二次	4/17	わかば		
		28	西神(11)	竹の台5-2	80	三次	5/9	G、スマイル竹の台、友愛会		
		29	西神(10)	榎野台3-3-2	44	三次	5/9	オークビア10		
		30	西神(16)	榎野台5-4	100	三次	5/10	オークビアカナダ		
		31	榎野台	榎野台5-5	120	二次	4/17	オークビア公園		
		32	西神(6)	菅野 公有地	223	二次	3/29	オークビア6		
		33	西神(15)	菅野 公有地	109	三次	5/10	オークビア15		
		50	西神(17)	狩場台3-9-7	6	四次	5/29	コープVカリバ		
		57	西神南(4)	井吹台東町7-3-2	156	五次	7/25	ほうれんそう		
		65	西神(19) 増加	菅野775	47	五次	8/1	オークビア6		
		66	竹の台(2) 増加	竹の台5-2-23	84	五次	8/9	竹の台婦人会		
		小計				21 か所	2,216			
		押部谷	押部谷東 押部谷西	14	桜が丘	桜が丘中町3-3-1	48	二次	4/6	桜が丘中・桜が丘西ボランティア
				15	押部谷(2)	押部729-1	100	二次	4/20)ほっとたいむ、すこやか会
				16	月が丘	月が丘3-39	42	二次	4/11	
				17	高塚台	高塚台5-2-1	107	二次	4/20	おとなり会
43	北山台			北山台2-33	38	三次	5/9	北山ふれあいのまちづくり協議会VG		
51	桜が丘中央			桜が丘東町3-1-11	120	四次	5/29	桜が丘東・桜が丘西ボランティア		
58	西神工業団地			高塚台4-4-1	395	五次	7/25	押部谷東・地元民協		
小計				7 か所	850					
玉津	玉津西 玉津東	44	曙	曙町26	38	三次	5/9)枝吉婦人会+地元民協		
		59	長畑	長畑町160	22	五次	7/24			
		60	王塚台(1)	王塚台5-35	18	五次	7/24			
		61	王塚台(2)	王塚台1-41	20	五次	7/24			
		62	玉津東(1)(2)	上池333-1 または337-8	13	五次	7/24 8/1	玉津第2婦人会		
		63	高津橋	高津橋490	41	五次	8/3	玉津婦人会		
小計				6 か所	152					
平野	西神中央 平野 西神中央	34	美賀多台	美賀多台9-4-1	60	二次	4/17	GPG(神戸学院大学)		
		35	春日台	春日台9-21	64	二次	4/17	春日台婦人会		
		36	西神(9)	春日台4-3	50	二次	4/6	美賀多台婦人会		
		37	西神(2)	大畑 公有地	252	二次	4/1	押部谷婦人会・テルスター・コープVかすが		
		38	西神(1)	向井 公有地	681	二次	4/2・3)平野・美賀多台・神出婦人会+神出・玉津東 ・平野・地元民協+阪神支援NW		
		39	西神(7)	向井 公有地	1,060	二次	4/21・22			
		45	西神(14)	春日台3-3-8	24	三次	5/9)平野・地元民協		
		46	西神(13)	春日台3-3-9 又は12	28	三次	5/8			
		47	西神五六	富前513	55	三次	5/8	平野・地元民協、クレッシェンド		
		64	西神(18)	下村436	21	五次	7/26	平野民協		
小計				10 か所	2,275					
岩岡	岩岡	40	岩岡(1)	岩岡550-3	40	二次	4/5)岩岡婦人会+地元民協		
		41	竜が岡	竜が岡3-16-1	96	二次	4/8			
		67	岩岡(2)	岩岡1268	625	五次	7/27	岩岡ふれあいのまちづくり協議会VG		
小計				3 か所	761					
西	区	総計		67 か所	8,941	二次募集	4,325			
		西神ニュータウン		31 か所	4,773	三次募集	2,594			
		西神ニュータウン、寛谷		7 か所	1,832	四次募集	238			
		学園都市		8 か所	792	五次募集	1,784			

(備考) 狩場台婦人会はカサブランカ、みどりの会、なでしこの会に、榎野台婦人会は<オークビア>と名前がつくグループに含まれる。

図1 安心テレホンサポート概念図



<テレホンサポート推進事業を構成する機関>

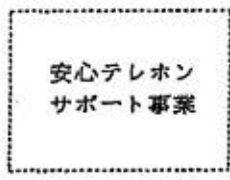
(関係行政機関)

西区社会福祉協議会 ボランティア・センター 消防署、警察署
西保健所・西福祉事務所・西区役所 市災害対策本部・住公

(その他の組織)

ボランティア・センター登録ボランティア、民生児童委員、婦人会
西農協、CO-OP神戸、ライフケア協会等ホームヘルプサービス団体
市民福祉振興協会

(参考)



3. ボランティア活動支援

平成7年は「ボランティア元年」といわれるように、阪神・淡路大震災でのボランティアのめざましい活躍は、ボランティアの役割の大きさを再認識させた。被災者が避難所から仮設住宅に転居してからも、ボランティアは積極的に活動した。特に、住みなれた市街地の住居を震災で失い、郊外である西区の仮設住宅に入居した高齢者・障害者にとっては、職場が遠いこと、通いながれた医療機関が遠いこと、ショッピングセンターなどの利便施設が遠いこと、従前のコミュニティからの分離などにより、ボランティアによる支援が必要だった。仮設住宅に対するボランティア活動は、訪問活動をしながら買物情報やバス路線情報を提供することから始められた。そして、友愛訪問、家事援助、移送・運転、茶話会、バザー、自治会結成への支援、イベントなどのボランティア支援が行われた。

このような活発なボランティア活動を支援していくために、また地域に密接したボランティアのコーディネートを行うように、ボランティアセンターが各区に設置された。西区も5月15日に設置し、ボランティアのコーディネート、情報紙の発行、ボランティア講座、ボランティアリーダー連絡会などを行ってきた。平成8年3月末現在で、西区ボランティアセンターに、地元の主婦層を中心とする個人ボランティア301名と55のボランティアグループが登録された。ニードの受付件数は233件で、そのうち205件は震災に関連する市民からのニードであった。ニードの内容で多いのは、「運転・移送」52件、「家事援助」46件、「技能・技術」17件となっている(表6)。

ボランティアセンターでは、支援を必要とする高齢者・障害者からのニードをコーディネートするほかに、高齢者の見守り活動を全仮設住宅に広げるために、ボランティアグループによる友愛訪問活動を促進した。第1に、センター登録グループに、決まった仮設住宅の友愛訪問を依頼した。第2に、個人登録者についても、ボランティアセンターから同じ地域の登録者に呼びかけて、ボランティア活動に対する話し合いを持ちながらグループ化を進め、ボランティアグループの活動として友愛訪問を依頼した。その結果、24の登録グループが友愛訪問活動に参加した。

ボランティアリーダー連絡会は、ボランティアグループ相互の情報交換を促進することを目的に、西区ボランティアセンターに登録するグループを対象として、平成7年8月から月1回開催してきた。ボランティア活動に関する問題、仮設住宅の支援に関する情報等が毎回熱心に話し合われた。グループが抱える問題に対し、体験談や意見を交換しあうことで、ボランティアの「燃え尽き」防止に役立ったと思われる。また、仮設住宅の入居が始まった頃、同じ仮設住宅を、違うボランティアが、何度も訪問するという問題が生じたが、こうしたボランティア会議を開催することでグループ間の情報交換と活動の調整ができるようになった。

ボランティアグループ「阪神高齢者・障害者支援ネットワーク」でも、ボランティアグループ相互の連携を決めるために、神戸市西区以西で活動するボランティアグループや仮設住宅自治会に呼びかけて「西ネットワーク」会議を開催した。西区社協も世話人という形で参加してきた。連絡会議は平成7年7月から月1回開催され、仮設住宅へのボランティア支援に関する熱心な討議が行われてきた。

仮設住宅の入居者の連絡会ももたれるようになった。仮設住宅自治会会長、ボランティアグループ代表などで構成される実行委員会が主催し、仮設住宅、ふれあいセンター、恒久住宅等について話し合う「市民交流会」が平成8年2月24日に開催された。仮設住宅入居者、ボランティアなど約200名が参加し、今後の市民生活の復興について意見が交換された。こうしてボランティアだけでなく仮設住宅自治会も含めて、これからの震災復興について情報交換する場が設けられるようになった。

表6 ボランティアセンターへのニード状況

平成7年度

	ニード件数	コーディネート件数
総数	233	175
友愛活動	14	12
家事援助	60	46
身辺生活介助	8	8
外出介助	10	6
運転・移送	74	52
学習指導	1	1
教養趣味指導	2	2
技能・技術	19	17

出 演	5	4
行事協力	5	3
作業（補助）	2	1
そ の 他	33	23

4. 今後の展望

上記以外にも、大震災直後から平成7年度の間、西区社協では被災された市民を支援するために様々な事業を実施してきた。今後、西区社協では、仮設住宅入居者の支援を行うとともに、地域福祉をさらに向上させるために、次のような観点が重要であると考えられる。

第1に、仮設住宅での高齢者の見守り活動を継続していくことである。多くの仮設住宅で「向こう3軒両隣」を基礎とするコミュニティができてきているものの、隣人が仮設住宅から転居した場合、近所づきあいが希薄になる可能性がある。今後もボランティアによる高齢者の見守り活動を行うことにより、仮設住宅のコミュニティを補完していく必要がある。

第2に、ボランティア活動の支援を積極的に進め、多くの市民がボランティア活動に参加しやすい環境を整えていくことである。そのためには、積極的な情報提供、ボランティア研修、ボランティア活動助成制度の充実等が必要であると考えられる。

第3に、仮設住宅でのボランティア活動を、地域の活動に広げて、誰もが安心して暮らしていける地域社会づくりに結びつけていくことである。仮設住宅でのボランティア支援活動を通じて、新しいボランティア文化を創造し、地域福祉の向上に結びつけていくことが必要だと考えられる。

西区社協では、これからも、被災された市民の支援を行うとともに、地域福祉の向上を目指していきたいと考えている。

事業概要表

事業名	事業概要	8年度への課題・展望
1. ひとりぐらし老人友愛訪問活動	65歳以上のひとりぐらし世帯、もしくはそれに準ずる老人世帯に対して、週に1回程度、安否確認、話し相手、相談等を行う。婦人会、ボランティア、民生委員児童委員の協力を得て、西区の仮設住宅全体に友愛訪問の対象を拡大した。 対象老人世帯 1, 655世帯（仮設住宅対象） 友愛訪問グループ 142グループ、882人（仮設住宅対象） （平成8年3月末日現在）	8年度も引き続き実施する。
2. 安心テレホンサポート事業	仮設住宅に入居されているひとり暮らし老人に対して週に2回程度、電話をかけることにより、健康状態等を確認する。平成7年6月28日より開始。 対象老人 300人 ボランティア登録 50人 電話回数 12, 659回 事業日数 186日 ボランティア延べ活動人員 541人 （平成8年3月末日現在）	健康状態が不安定な高齢者、及び希望者に8年度も引き続き、テレホンサポートを行う。
3. ボランティアセンターの設置	相談・斡旋事業 開設：平成7年5月15日～ 開設時間：午前9時～午後5時（土・日・祝除く） 場 所：西区役所4階 ボランティア登録者数：個人 301人、グループ 55 相談受付回数：1, 037回 二ード受付回数：233件 斡旋数：175件 その他、情報紙発行、講座、連絡会、テレホンサポートなど	8年度も引き続き実施する。

4. 愛の輪ふれあいテント設置事業	<p>仮設住宅で、入居者、地域住民、ボランティアの交流を図ることを目的に、神戸新聞厚生事業団からの助成を受けて、愛の輪ふれあいテントを設置。平成7年11月16日事業開始。</p> <p>設置箇所数：延べ12カ所 うち9カ所は常設</p> <p>利用事例：茶話会、炊き出し、自治会の集会など</p>	8年度も引き続き実施する。
5. 情報紙の発行事業	<p>ボランティア活動、仮設住宅、復興支援に関する情報を掲載。平成7年8月より毎月発行。（発行回数7回）</p> <p>名称：「ボランティアセンター西区」</p> <p>発行部数：1万部</p> <p>配付先：仮設住宅自治会、ふれあいセンター、地域福祉センター、児童館、主な公共施設、小学校を通じて6年生の父兄に配付。</p>	<p>8年度も引き続き発行する。</p> <p>2カ月に1回発行。8年度中に6回発行予定。</p>
6. 修理用具等の貸出し	<p>仮設住宅の建物等の小規模な修繕に対応するためふれあいセンター運営協議会、または仮設住宅自治会に修理用具を貸出す。平成7年10月から実施。</p> <p>貸出し団体：41団体</p>	8年度も引き続き貸出す。
7. 掲示板等の設置	<p>広報こうべなど各種お知らせや情報紙を掲示するために仮設住宅敷地内に広報掲示板を設置。</p> <p>また、仮設住宅への来訪者に目的地の場所がわかるように、市営地下鉄の主な駅に案内地図を設置。</p> <p>広報掲示板 27カ所</p> <p>案内地図 3カ所（西神中央、西神南、学園都市）</p>	
8. 生活福祉資金特別貸付（小口貸付）の実施	<p>震災で被災した住民に対し、生活の支援を図るため、緊急的、特例的に小口貸付を実施した。対象者は震災で世帯員の死亡や負傷、住居の損壊などで生活に困窮している世帯。貸付額は1世帯10万円（特に必要な場合20万円）</p> <p>受付期間：平成7年1月27日～2月9日</p> <p>西区で995件の申し込みで、貸付金額は1億6780万円。</p>	
9. 生活福祉資金災害援護資金の貸付	<p>震災で被災した住民に対し、生活の支援と安定を図るため、緊急的に実施した。第1回目の受付は5月17日～7月31日、第2回目の受付は10月2日～10月31日で、申し込みは77件8,043万5千円、貸付金額は5,443万円であった。</p>	
10. ふれあい推進員の設置	<p>被災した住民への応急仮設住宅には、ひとりぐらし老人等の要援護者が多数居住しており、これらの人々を地域で見守るため民生委員児童委員の協力者として平成7年8月発足した。要援護者の安否確認、友愛訪問活動、関係行政機関への連絡などを行う。主に仮設住宅入居者から推薦してもらい、西区では平成7年度中に106人が委嘱された。</p>	8年度も引き続き実施する。
11. ボランティア講座	<p>ボランティア活動に関する基本的な知識・技術を身につけるためにボランティア講座を開催。</p> <p>1) ボランティア入門講座 （平成7年10月17日～11月18日、全5回） 44名が参加。受講後はボランティアセンターに登録し、様々な活動に活躍中。</p> <p>2) ボランティア実践講座 （平成8年1月24日～2月14日、全5回） 23名が参加。受講後はボランティアセンターに登録し、様々な活動に活躍中。</p> <p>3) 手話講習会 （平成7年10月18日～、全20回） 手話の初心者対象。50名が参加。受講後は手話サークル西に加入して活</p>	8年度も、7年度と同様の講座を実施する。

	動中。	
12. ボランティアリーダー連絡会	ボランティアグループ相互の情報交換、ボランティアセンターからの情報提供を行うため月1回ボランティアリーダー連絡会を開催。 第1回目は平成7年8月24日。	8年度も月1回開催する。
13. 高齢者リフレッシュ事業	仮設住宅に住む高齢者世帯を対象に心身のリフレッシュと入居者のコミュニケーションを図ることを目的として実施。 ・社会福祉・医療事業団（長寿社会福祉基金）助成事業 ・主催：西区社協、神戸市社協 ・共催：全社協 ・平成8年3月6日・7日（1泊2日）、しあわせの村にて ・参加者 31組（62名） ・内容 講演会、福祉機器ホールの見学、リフレッシュ体操 健康相談、パターゴルフ、庭園散策、入浴など	8年度も実施予定。

(c)1997神戸市社会福祉協議会、兵庫県社会福祉協議会阪神・淡路大震災社会福祉復興本部 (デジタル化：神戸大学附属図書館)